

東京大空襲を

語り継ぐつどい

東京大空襲・戦災資料センター 開館 **17** 周年

〈主催〉 東京大空襲を語り継ぐつどい実行委員会

〈連絡先〉 東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂 1-5-4

TEL:03-5857-5631 FAX:03-5683-3326

<http://www.tokyo-sensai.net/>

日時 2019年 **3月10日** (日)

開場 13時 **開会** 13時20分

会場 江東区文化センター ホール (東陽町) ※アクセスは裏面

定員 500名 (当日先着順) **参加費** 500円 (高校生以下無料)

講演 中島 京子さん

(作家、『小さいうち』で直木賞を受賞)

「記憶を受け取る～想像力の鍛え方」

*文化行事 ピアノ演奏と歌 滝澤三枝子さんほか

オリジナル曲「希望のピアノ」ほか2曲

*体験を語る 正木安喜子さん 「私の昭和20年3月10日」

*戦災資料センターのこの1年の動き

*センターで学ぶ子どもたち

*あいさつ 早乙女勝元 (東京大空襲・戦災資料センター館長)



中島 京子さん

講師の紹介

中島京子さん。1964年、東京都生まれ。東京女子大学文理学部史学科卒。出版社勤務を経て渡米。帰国後の2003年『FUTON』で小説家デビュー。

2010年『小さいうち』で直木賞、2014年『妻が椎茸だったころ』で泉鏡花文学賞、2015年『かたづの!』で河合隼雄物語賞、歴史時代作家クラブ作品賞、柴田錬三郎賞、同年『長いお別れ』で中央公論文芸賞、2016年日本医療小説大賞を受賞した。

他に『平成大家族』『パステイス』『眺望絶佳』『彼女に関する十二章』『ゴースト』等著書多数。

講師からのメッセージ 東京の街に爆弾や焼夷弾が降り注いだのは、もう70年以上前のことになります。実際にそれを体験していない者が、それを自分自身にとって重要な記憶として、刻み込むというのはどういう行為なのか、どうすればそれが可能なのか、そして、それをさらに若い世代にバトンのように渡していくために何をすればいいのか。デビュー作の『FUTON』で下町の、『小さいうち』で山の手の大空襲を小説の中に書き込んだ経験をお話しつつ、会場のみなさまといっしょに考えてみたいと思っています。

ピアニストの紹介

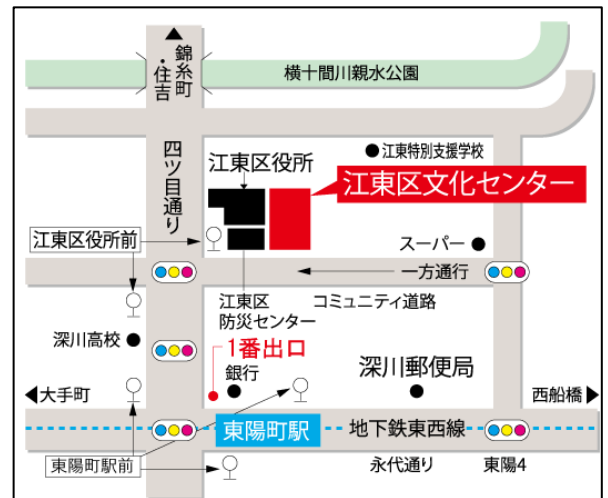
滝澤三枝子さん。東京生まれで3歳からピアノをはじめ。国立音楽大学を修了後、海外で研鑽をつみ、1990年ごろから世界各地で演奏活動をはじめ。スペイン音楽、現代曲、モーツァルト協奏曲などを得意とし、繊細かつ情熱的な演奏は、国際的に高い評価を受け、多くの観客を魅了している。国立音楽大学の講師を長年つとめたほか、福祉施設や病院、学校などでボランティアコンサートもおこなっている。現在、日本スペイン文化協会代表理事。

会場案内 江東区文化センター

〒135-0016 東京都江東区東陽 4-11-3

アクセス

- ◆東京メトロ東西線「東陽町」駅 1番出口より徒歩5分
- ◆JR「錦糸町」駅または都営新宿線「住吉」駅より都バス東22系統「東京駅丸の内北口」行または「東陽町駅前」行に乗り、「江東区役所前」下車 徒歩3分
- ◆JR「亀戸」駅または都営新宿線「大島」駅より都バス亀21系統「東陽町駅前」行に乗り、「東陽町駅前」下車 徒歩5分
- ◆「亀戸駅通り」バス停より都バス都07系統「門前仲町」行に乗り、「東陽町駅前」下車 徒歩5分



東京大空襲・戦災資料センター

1945年(昭和20年)3月10日未明、約300機のアメリカ軍爆撃機B29が、東京下町を目標に焼夷弾による無差別爆撃をおこないました。一帯は火災地獄と化し、罹災者は100万人をこえ、推定10万人もの尊い命が失われました。東京は3月10日を含めて100回以上の空襲を受け、市街地の5割を焼失しました。

1970年から「東京空襲を記録する会」が空襲の実態の掘り起こしを進めましたが、東京都は1999年に「平和祈念館」建設計画を凍結。記録する会と財団法人政治経済研究所は、やむにやまれぬ思いで民間募金を呼びかけ、4000人超の方々のご協力を得て、2002年3月9日に東京大空襲・戦災資料センターが開館しました。

開館からの17年間、多くの会員のご支援のもと、民立民営の平和博物館として、来館者に空襲の実相、いのちと平和の尊さを伝えてきました。空襲体験者の引退が迫るなか、現代の来館者の関心・ニーズに応えられるように、現在リニューアルも進めています。